

第2四半期連結業績ハイライト

(百万円)	18/3期 2Q (実績)	19/3期 2Q (実績)	前年同期比 増減額
売上高	1,793	2,026	233
売上総利益	583	602	19
販売費及び一般管理費	425	454	29
営業利益	158	147	△11
経常利益	178	173	△5
特別損失	—	△2,664	△2,664
税引前当期純利益	179	△2,458	△2,637
親会社に帰属する 当期純利益	105	△2,521	△2,626

- 売上高はeコマース事業の伸長などにより堅調に推移
- 一方で、新規事業への先行投資と人材の採用、M&A費用により利益は減少
- EMTGの子会社化に伴い、株価が上昇したことからP/L上の特別損失を計上（次ページ参照）

特別損失の計上について 1

- EMTGの完全子会社化について（株式交換及び現金によるM&A）

- ① 5/31M&Aスキーム合意公表（現金と株式交換による買収）
（合計30億円 内訳 現金約10億円 と 株式 約150万株（株価1,564円））
- ② 6/28両社株主総会
（5/31のM&A合意決定）
- ③ 9/28完全子会社化
（内訳 現金約10億円 と 株式 約150万株） 但し9/28の株価は2,954円に上昇

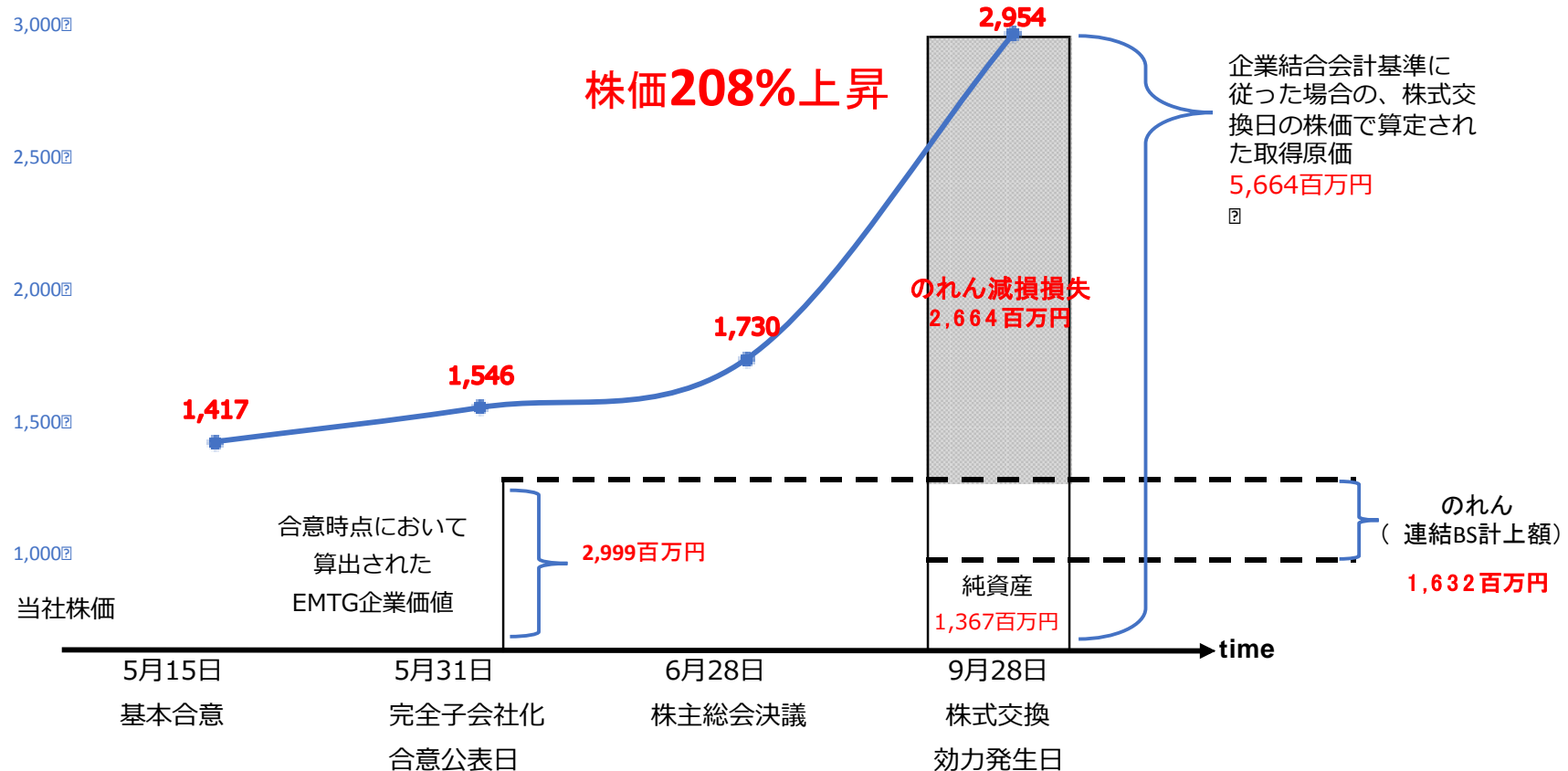
- 現在の日本基準の会計学の考え方では、
当社株価が 5/31の合意公表日の株価1,564円から、
完全子会社化の日である9/28に2,954円になったことにより、
EMTGの取得総額は BS上約55億円とされ、
差額約25億円を特別損失（P/L）として計上しなければならないと
監査法人より指摘されました。

特別損失の計上について 2

- 株価が上昇したことによって、
BS上の子会社株式の取得額も上昇し、
これを調整するためにP/Lで損失を計上するということは、
会社法や株式事務手続きに、
会計基準が、対応しきれていないことが要因でもあります。
- 今回、株価が上昇したことで、
実際に損失が発生していないにもかかわらず、
見かけ上の損失を計上することとなりました。
- 監査法人・弁護士等関係各所と協議を進めてきましたが、
当社のようにM&Aの公表後に
株価が2倍となり、
このような見かけ上の損失を
P/Lに計上した例は過去にないことです。
- 基準自体への検討が必要であるものの、
現行の会計基準に従わざるを得ず、
P/Lの特別損失へ計上せざるを得ませんでした。

特別損失の計上について 3

- EMTGとの株式交換について、合意公表日から株式交換日までの当社株価の上昇により、
- 会計学上の解釈により、株価の上昇分をP/L上の特別損失（2,664百万円）として計上



- 企業会計基準に則った理論上の損失であり、実際に損失が発生していないため、現金収支にも全く影響はありません。
- 詳しくは11月14日に開示いたしました「特別損失の計上に関するお知らせ」もご覧ください。

EMTGへのM&Aについて

- 今回のM&Aは、EMTGの株式を保有していた株主（個人、企業、ファンド等）にエムアップ株式の交付および、現金を支払うことにより、エムアップはEMTGの全発行済み株式を取得し、EMTGを100%子会社といたしました。
- 今回の株式交換でエムアップは、EMTGの全ての事業・システムおよび、現預金を含むすべての資産を吸収いたしました。
- 平成31年3月期第2四半期の貸借対照表には、吸収したEMTGの資産、負債も連結されております。（損計算書の連結は第3四半期以降）
- EMTGの元の株主たちが、M&Aにより取得した、エムアップの株を売却したとしても、売却代金は、EMTGの元の株主（個人、企業、ファンド等）のものであり、当社エムアップに入金されるものではありません。
- 当社は上場時も、それ以後も、公募増資による資金調達は、これまで一切行っておりません。（詳しくは過去の、当社適時開示情報をご確認ください。）
- 今回、EMTGの株主に割り当てられた、エムアップの株を1%以上の持つ株主はロックアップ契約および、当社インサイダー規程等により、売却期間に一定の制限があります。また、現在まで、売却された事実はありません。

EMTG連結後の19年3月期 業績見通しについて 1

(百万円)	18/3期		19/3期		前期比
	(実績)	比率	(予想)	比率	
売上高	3,683	100%	6,300	100%	171.1%
売上総利益	1,157	31.4%	1,880	29.8%	162.5%
販売費及び一般管理費	847	23.0%	1,561	24.8%	184.3%
(うちのれん償却額)	0	—	136	2.2%	—
営業利益	309	8.4%	325	5.2%	105.2%
経常利益	434	11.8%	284	4.5%	65.4%
税引前当期純利益	295	8.0%	△2,100	—	—
親会社に帰属する 当期純利益	101	2.7%	△2,300	—	—

- EMTGの完全子会社化により、下期からの6ヶ月間分のみ同社を連結
- 連結にあたり、資産計上されていたEMTGの過去5年分のソフトウェアを一括減損処理
- そのため、今期に限りEMTG分の利益は大幅に減少
- 全社では、既存事業の底上げもあり、売上高は過去最高とるも、M&A費用、先行投資も吸収し微増
- 特別損失は会計上の解釈によるものであり、それを除く本業は堅調。法人税等も200百万円ほどを見込む。

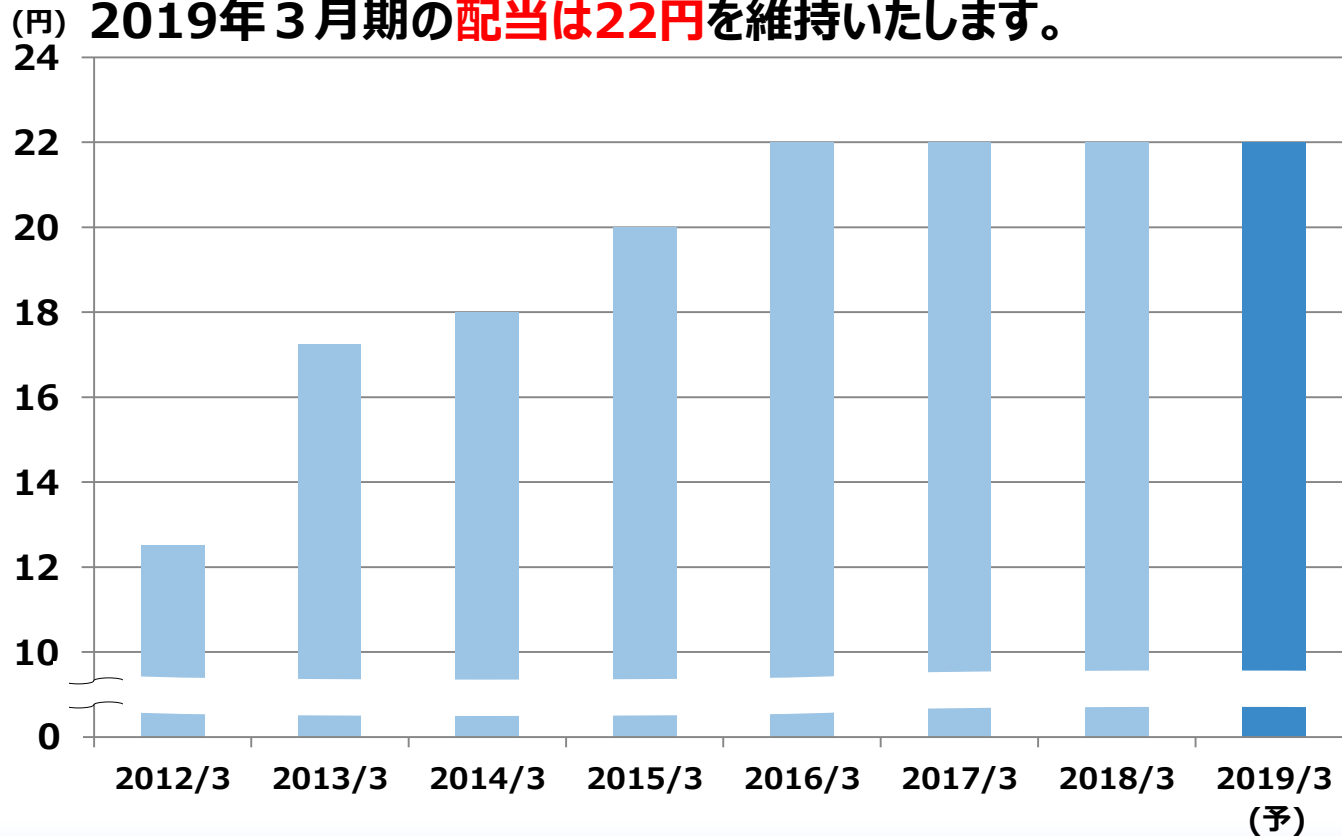
EMTG連結後の19年3月期 業績見通しについて 2

- 19年3月期の営業利益、経常利益について
- 設立以来、当社では、事業活動の成果を適時、適切に財務諸表に反映させるため、ソフトウェアについては資産計上せず、発生時に都度償却処理しております。
- これに対して、EMTGはソフトウェアを資産計上し、5年間で償却しておりました。
- 今回、EMTGを完全子会社化するにあたり、これまで**EMTGが資産計上していたソフトウェア資産を19年3月期において、一括償却処理することといたしました。**
- 以上より、平成31年3月期の業績予想において売上高は3,863百万円から6,300百万円（前年同期比171.1%）へと増加する見通しですが、一方で、EMTGのソフトウェアの減損処理によって利益は大きく圧迫され、営業利益は325百万円と微増となります。
- 今回、過去5年分のソフトウェアを費用処理することで、20年3月期以降はEMTGの財務体質は改善し、収益性が向上し、利益率は適正な水準に戻ると想定しております。
- また、今後、エムアップとのシナジー効果を発揮していくことで、グループ全体としての利益は増加していくと見込んでおります。

配当政策

今後も積極的な事業投資と高配当を維持

会計基準にしたがい、見掛け上の損失を計上いたしましたが、純資産、現預金は大幅に増加しており、財政体質への影響は全くありません。営業利益は微増ですが、今後のグループのシナジー効果が期待され、成長を見込むため2019年3月期の配当は22円を維持いたします。



株主優待制度

毎年、期末(3月31日)及び第2四半期末(9月30日)現在の当社株主名簿に記載または記録された当社株式1単位(100株)以上を保有する株主様を対象に当社オリジナルのQUOカード500円分を贈呈(年間 1,000円贈呈)



株主優待制度も継続いたします。

要約貸借対照表

	18/3期 2Q (実績)	19/3期 2Q (実績)	前年同期比 増減額
流動資産	2,016	6,217	4,201
現預金	1,245	4,420	3,175
売上債権	588	1,173	585
棚卸資産	21	27	6
その他	161	595	434
固定資産	1,012	2,614	1,602
有形固定資産	287	445	158
無形固定資産	80	1,677	1,597
のれん	10	1,632	1,622
投資その他の資産	644	491	△153
資産合計	3,029	8,832	5,803

	18/3期 2Q (実績)	19/3期 2Q (実績)	前年同期比 増減額
流動負債	798	4,705	3,907
買掛債務	400	2,240	1,840
有利子負債	0	0	0
その他	397	2,465	2,067
固定負債	41	25	△16
負債合計	839	4,731	3,892
純資産	2,189	4,101	2,067
株主資本	2,126	4,074	2,067
その他	62	26	2,067
負債・純資産合計	3,029	8,832	5,803

- 当社は2018年5月15日のM&A公表時には現預金を15億円保有しており、5月15日時点のEMTGの保有する現預金25億円を含めて、現在、9月30日、グループとして44億円の残高となり、財務基盤はより強固になりました。